



富山市立池多小学校

校長：堺 貴子

指導教諭：木倉 泰央

発表児童：4年1組(11名)



本校は、富山市の西端に位置し、山林や農地に囲まれ、冬には白鳥が飛来する田尻池があるなど、豊かな自然環境に恵まれている。全校児童55名は、「いきいきここにこたくましい池多っ子」を目標に、みんなが仲良く、協力して学習や活動をしたり、体力づくりに取り組んだりしている。地域の方々の学校への協力・支援も厚く、子どもたちは、そういった思いやりに支えられ、いきいきと学校生活を送っている。

発表テーマ

『わたしたちのビオトープ大作戦』

自分たちで考えたビオトープを、地域の方々や保護者の協力のもと、少しずつ、手作業で作り上げています。まだ、完成してはいませんが、植物がふえたり小さな動物が見られるようになったりしています。学校近くを流れるかじ川に、生き物調査や水質調査に行きました。上流の水は、きれいであったが、300mほど下流では、水質がよくないことが分かり、きれいにしたいと考えています。

木倉 泰央 先生より

小さな生き物たちのために ビオトープを作る中で感じた水の大切さ

子どもたちは、去年の4年生が、観察池で育てていた植物やメダカなどを、より良い環境で育てたいと、ビオトープ作りを始めました。そして、ビオトープの設計図を考えていく中で、生き物にとって水質や土質、すみかになる物などの環境が大切なことや、食物連鎖のことなどを学びました。また、ビオトープは、地域に生息する動植物が、自然に集まってくるような環境を作ることが大切なことを知り、地域の水の環境や、そこにくらす動植物についても目を向けることができました。ビオトープに来た生き物たちを、うれしそうに見つめる子どもたちは、今後も、水を含めた環境を大切に、動植物たちの命を、温かく見守っていくことと思います。



▲ピオトープ作りの始まりです。



▲池の底に、粘土や田んぼの土を敷きました。



▲池に、地域の植物を植えました。



▲アオミドロ口をすくっていると、水生昆虫が見つかりました。



▲学校横のかじ川の上流や中流で、生き物や水質を調査しました。



▲いろいろな生き物が見つかりました。

考えたこと！感じたこと！



みんなでがんばった、ピオトープ作り

村田 伍輝(4年生)

ぼくは、4年生のみんなとピオトープを作りました。そして、ピオトープを作る中で、ヒシがかれたり、水生こん虫が来てくれたりしたことなどから、生き物にとって水がどれだけ大切なかが分かりました。他にも、ピオトープを作っている場所には草があまり生えなかったのに、ピオトープを作ると草がいっぱい生えるようになったことや、地いきのかじ川調査をして、かじ川には、たくさんの生き物がいることも分かりました。これらの経験から、水はすごく大切なことが分かったので、これからもぼくは、水を利用することだけではなく、他の生き物のために、水を節約したり、川のごみを拾ったりするなど、水を大切にしていきたいです。



学習テーマの設定

よりよい環境で育てたい学校の観察池で育てた生きものを、よりよい環境で育てたいと、ピオトープを作ることになりました。たくさんの生きものが来てくれるように、みんなでインターネットや本で調べました。



ピオトープづくり開始!
草むらがほしいな。石や木を積み重ねると生きもののかくれがになる。池は形がふくざつで、浅い所や深い所がある方が住みやすい…など、みんなのアイデアでピオトープづくり開始!

学習の展開

いつのまにか池が…
土がかたく植物が生えない場所に、地域の方がショベルカーで池をほってください。何日かたって行くと、雨がたまって池になり、防水用に用意した田んぼの土に植物が生えていた!



地域の植物を植える
地域の植物を植えて池多の生きものに来てほしいと、オオハクチョウで有名な田じり池のヒシを植えました。強い風で陸に打ち上げられ枯れてしまった…。水の大切さがわかりました。

生きものいっぱい発見!
池に増えたアオミドロ口を取るとき、生きもの発見!いつのまにかピオトープに生きものが来ていたのです。水は、草も生えなかった場所を、生きものがいっぱい場所に変えてくれました。



川で生きもの調査
地域のかじ川へ生きもの調査にいきました。上流はわりときれいでしたが、400mほど下った学校のそばでは汚い水にすむ生き物が多く、バックテストでも下流ほどの汚れがあり残念でした。

水は命のみなもと
ピオトープをつくって、水が生きものに大切だとよくわかりました。水は命のみなもと。そして生きもののみなもと。そして生きもののみなもと。いっしょに生きる仲間たちのためにも、水を汚さないようにしましょう!

